

2019年度 センター研究員・研究協力者

センター研究員

名 前	所 属 部 局	職 名	研究班
小熊 誠 (センター長)	歴史民俗資料学研究科	教授	4・6
熊谷 謙介 (運営委員・副センター長 (編集担当))	外国語学研究科 欧米言語文化専攻	教授	2
孫 安石 (運営委員・主任研究員 (国際交流担当))	外国語学研究科 中国言語文化専攻	教授	5
後田多 敦 (運営委員・事務局長 (研究事務総括・編集担当))	歴史民俗資料学研究科	准教授	6
大川 啓 (運営委員 (研究会担当))	歴史民俗資料学研究科	准教授	9
内田 青蔵	工学研究科建築学専攻	教授	5・7
大串 潤児	信州大学 人文学部	教授	9
大里 浩秋	神奈川大学	名誉教授	5
加治 順人	宗教法人沖縄県護国神社	宮司	6
菊池 敏夫	外国語学部国際文化交流学科	特任教授	5
木下 宏揚	工学研究科 電気電子情報工学専攻	教授	8
小松原 由理	外国語学部国際文化交流学科	准教授	2
駒走 昭二	外国語学研究科	教授	4
昆 政明	歴史民俗資料学研究科	特任教授	7
佐野 賢治	歴史民俗資料学研究科	教授	7・8
ジョン・ボチャリ	—	—	1
菅 浩二	國學院大學神道文化学部	教授	6
坂井 久能	外国語学部国際文化交流学科	特任教授	6
須崎 文代	工学部建築学科	特別助教	5
鈴木 陽一	外国語学研究科 中国言語文化専攻	教授	1・3
ステファン・ブッヘンベルグ	外国語学研究科 欧米言語文化専攻	教授	2
田上 繁	神奈川大学	名誉教授	7
津田 良樹	神奈川大学	元助教	6
富澤 達三	松戸市立博物館	学芸員	4
鳥越 輝昭	外国語学研究科 欧米言語文化専攻	教授	2
中島 三千男	神奈川大学	名誉教授	6
中林 広一	外国語学部国際文化交流学科	准教授	3
能登 正人	工学研究科 電気電子情報工学専攻	教授	8
彭 国躍	外国語学研究科 中国言語文化専攻	教授	5
前田 孝和	株式会社 神社新報社	相談役	6
松浦 智子	外国語学研究科 中国言語文化専攻	准教授	3
三笠 友洋	西日本工業大学 デザイン学部建築学科	准教授	7
宮田 純子	芝浦工業大学情報通信工学科	准教授	8
村井 寛志	外国語学研究科 中国言語文化専攻	教授	5
森住 哲也	工学部電気電子情報工学科	特別助教	8
森山 優	静岡県立大学国際関係学部 大学院国際関係学研究所	教授	9
安田 常雄	神奈川大学	元特任教授	9
渡辺 美季	東京大学大学院総合文化研究科	准教授	4

研究協力者

名 前	所 属 部 局	職 名	研究班
新垣 夢乃	東京福祉大学	特任講師	9
石井 和帆	歴史民俗資料学研究科	博士後期課程	7
稲宮 康人	写真家	—	6
上原 兼善	岡山大学	名誉教授	4
王 京	北京大学外国語学院日本語学部	教授	3
王 子成	神奈川大学外国語学研究科 中国言語文化専攻	博士後期課程	3
大木 康	東京大学東洋文化研究所	教授	3
何 彬	首都大学東京人文社会学部	教授	1
君 康道	東京大学大学院総合文化研究科	講師	1
栗原 純	大阪経済法科大学	客員教授	5
葛 涛	上海社会科学院歴史研究所	研究員	5
小島 摩文	鹿児島純心女子大学大学院 人間科学研究科	教授	4
小松 大介	沼津市歴史民俗資料館	嘱託職員	8
小山 亮	公益財団法人 広島平和文化センター	研究員	9
斎藤 多喜夫	横浜外国人居留地研究会	会長	5
鈴木 一史	一般財団法人日本遺族会 (昭和館) 学芸部学芸課企画係	学芸員	9

名前	所属部局	職名	研究班
高津 孝	鹿児島大学法文学部	教授	4
田島 奈都子	青梅市立美術館	主査学芸員	5
田中 里奈	神奈川大学	非常勤講師	2
張 韜	神奈川大学外国語学研究所	博士後期課程	3
陳 小法	浙江工商大学 東亜研究院	副院長 / 教授	3
得能 壽美	法政大学大学院 (国際日本学)	非常勤講師	4
富井 正憲	漢陽大学校建築大学建築学部	教授	5
中井 真木	明治大学大学院	特任講師	1
中村 慧	歴史民俗資料学研究所	博士後期課程	7
中村 みどり	早稲田大学 商学部	准教授	5
丹羽 謙治	鹿児島大学学術研究院 法文教育学域法文学系	教授	4
橋口 亘	南さつま市教育委員会 (坊津歴史資料センター輝津館)	主査	4
原田 広	(元) 非文字資料研究センター	(元) 事務職員	9
松本 和樹	歴史民俗資料学研究所	博士後期課程	9
松山 紘章	歴史民俗資料学研究所	博士後期課程	6
山口 建治	神奈川大学	名誉教授	3
嚴 明	上海師範大学人文学院	教授	3
李 利	非文字資料研究センター	協力者	1
吉川 良和	一橋大学言語社会研究科	特任教授	3
若宮 幸一	旧古河鉱業若松ビル	館長	7
渡邊 奈津子	—	—	6

- 研究班：1. 『マルチ言語版絵巻物による日本常民生活絵引』 編集共同研究
2. 絵画・版画・写真に見られる19世紀ヨーロッパの都市生活
3. 第二期『東アジア生活絵引(中国江南編)』 編集のための基礎作業
4. 日本近世生活絵引一行列から見る都市生活空間—
5. 東アジア開港場(租界・居留地)における日本人の諸活動と産業
6. 近代沖縄における祭祀再編と神社
7. 中世景観復元学の試み—北九州市若松区の惣牟田集落を事例として—
8. 非文字資料研究のコミュニティにおける知識とサービスの効率的な検索と安全安心な流通研究
9. 戦時下日本の大衆メディア研究

2019年度 奨励研究者決定

研究課題	氏名(所属)
内モンゴルにおけるモンゴル・シャーマニズムの民俗変遷	張 高娃 (歴史民俗資料学研究所博士後期課程)
奄美諸島の石敢當受容	蔣 明超 (歴史民俗資料学研究所博士後期課程)
台湾原住民セデック族の文化の変容に関する研究	李 干 (歴史民俗資料学研究所博士後期課程)
豚から見る動物供犠—台湾を中心に—	王 海翠 (歴史民俗資料学研究所博士後期課程)
景德镇における伝統染付生産道具の基礎的研究	王 麗 (歴史民俗資料学研究所博士後期課程)
祭礼における権威創造の研究	市東 真一 (歴史民俗資料学研究所博士後期課程)

『国策紙芝居からみる日本の戦争』(「戦時下日本の大衆メディア研究」班代表 安田常雄編著) が堀尾青史賞(子どもの文化研究所)を受賞しました。

2019年7月6日に開かれた贈呈式・お祝いの会で、安田常雄客員研究員は、下記のようにコメントされました。

私どもは2014年度から「戦時下日本の大衆メディア」とやや風呂敷を広げた共同研究を開始し、昨年度末までに、今回表彰いただいた『国策紙芝居からみる日本の戦争』を研究成果として出版することができました。この中では、神奈川大学が所蔵する紙芝居を対象とした「解題」(各作品のあらすじ、評価、主要場面の紹介)、数点の研究論文、残存紙芝居等の目録データを掲載しております。しかし、戦時下紙芝居の全容は依然として不明であるといわざるを得ません。街頭に溢れた国策標語をストレートに紙芝居に持ち込み戦争協力を舞い上がった作家(品)があった一方で、総力戦体制のもとで主題・内容ともに微妙な立ち位置を示す作品も川崎大治・稲庭桂子・堀尾青史らによって数多く描かれています。これらを「国策」紙芝居として一刀両断することはできず、作品と活動実態の調査を通してこの時代を生きた人々の意識の重層性を解明することこそが課題

であろうと考えております。それは広い意味での大衆芸術との接点を明らかにすることにもつながっていくと思います。出版を契機として、幸いにも全国各地から様々な反応があり、新たな所蔵者が判明したり、実際に活動していた組織・関係者からの聞き取りが実現しております。戦時下紙芝居の意外と広い裾野の姿が見えてきており、「堀尾賞」受賞を一層の励みとして、このメディアの有する振り幅を意識して戦時下という時代・文化を描き出すという目標を掲げて、研究を継続してまいりたいと存じます。本日は有難うございました。



運営委員会

2019年度

- 第1回 2019年4月23日 (1)2018年度決算報告について、(2)2019年度予算配分(案)について、(3)センター研究員人事について、(4)華東師範大学との学術交流についての覚書(更新手続き)、(5)海外提携機関への派遣研究員の応募について、(6)2019年度共同研究計画書提出について、(7)第四期(2017～2019年度)共同研究「成果報告書」のまとめについて、(8)第五期共同研究申請のお願い、(9)非文字資料研究叢書 Vol.3 企画(案)について、(10)租界・居留地班 公開研究会 企画(案)について
- 第2回 2019年5月29日 (1)2019年度奨励研究審査について、(2)センター研究協力者人事について、(3)湖北民族大学民族学与社会学学院からの研究者訪問について、(3)『非文字資料研究』エントリーシートの一部見直しについて
- 第3回 2019年6月25日 (1)第四期各班共同研究成果の公開方法について、(2)2019年度海外提携機関からの招聘研究員について、(3)2019年度海外提携機関への派遣研究員について、(4)2019年度奨励研究者予算書再提出について、(5)『マルチ言語版絵巻物による日本常民生活絵引』編纂再稼働について、(6)海外提携研究機関等、海外在住者への原稿料謝金の扱いについて

研究員会議

2019年度

- 第1回 2019年4月24日 (1)2018年度決算報告について、(2)2019年度予算配分(案)について、(3)センター研究員人事について、(4)華東師範大学との学術交流についての覚書(更新手続き)、(5)租界・居留地班 公開研究会 企画(案)について、(6)非文字資料研究叢書 Vol.3 企画(案)について

研究会

研究班研究会

2019年度

- 第2班 絵画・版画・写真に見られる19世紀ヨーロッパの都市生活、2019年6月5日
- 第3班 第二期『東アジア生活絵引(中国江南編)』編纂のための基礎作業、2019年6月19日
- 第4班 日本近世生活絵引—行列から見る都市生活空間—、2019年8月30日～8月31日
- 第5班 東アジア開港場(租界・居留地)における日本人の諸活動と産業 第62回例会、2019年5月18日

現地調査

共同研究班	日程	場所	調査メンバー
戦時下日本の大衆メディア研究	5月17日～5月19日	人形劇の図書館(滋賀県)	森山優・原田広・新垣夢乃・小山亮
中世景観復元学の試み—北九州市若松区の惣牟田集落を事例として—	6月6日～6月8日	北九州市若松区惣牟田	田上繁・金子浩之・松原典明
中世景観復元学の試み—北九州市若松区の惣牟田集落を事例として—	6月25日～7月1日	北九州市若松区惣牟田	田上繁・石井和帆
戦時下日本の大衆メディア研究	7月6日	学習院大学(子どもの文化研究所堀尾賞受賞・授賞式)	安田常雄・大串潤児・原田広
東アジア開港場(租界・居留地)における日本人の諸活動と産業	7月14日～7月17日	中国山東省青島	孫安石・内田青蔵・大里浩秋・富井正憲
戦時下日本の大衆メディア研究	8月1日～8月4日	遺愛幼稚園(函館)、北海道立文学館	安田常雄・大串潤児・森山優・鈴木一史
絵画・版画・写真に見られる19世紀ヨーロッパの都市生活	8月14日～9月3日	フランス(パリ・エピナルなど)	熊谷謙介

編集後記

冒頭を飾るのは、センター10周年記念シンポジウムの報告です。未来の針路を見定めようと過去の航跡をたどる構成ですが、歴代のニューズレターもまた、その役に立つでしょう。今回は2つの公開研究会・研究調査の報告を皮切りに、韓国と中国に提携研究機関を訪問した際の報告、また招聘・派遣研究員のレポートなどを読むことができます。荒波のなかでも船を進めようとする非文字資料研究について、これからもご期待ください。(K.K)

表紙説明

沖縄県石垣島於登岳中腹にある第45旅団の管内神社「八重山神社」基壇跡。沖縄戦が展開される中、石垣島では1945年6月には第45旅団司令部や役場、住民などは於登岳へ避難している。この「八重山神社」もこの時期に創られた。「戦争遺跡」の一つでもある。石垣島ではそれ以前に県社「八重山神社」創建の動きがあり、それとの関係はまだはっきりしない。関連が明らかになれば、戦時下での石垣島の状況もより理解できるかもしれない。(A.S)